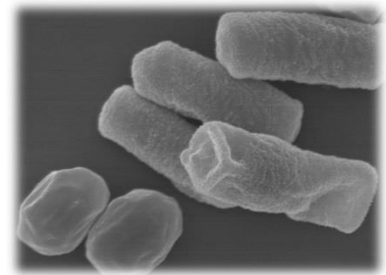


有孢子性乳酸菌プロバイオティクスの風邪様症状の改善効果を確認

三菱ケミカルグループ^{※1}の三菱ケミカル株式会社は、有孢子性乳酸菌プロバイオティクスであるヘンドリクシア（旧名：ワイツマニア、バチラス）・コアグランス（*Heyndrickxia coagulans* SANK70258）^{※2}（以下H・コアグランス）の風邪様症状に対する有効性を検証するヒト臨床試験を行い、H・コアグランスが風邪様症状を緩和させることを確認しました。この研究成果は2024年6月17日「Frontiers in Immunology」に掲載されました。^{※3}

乳酸菌は、有用微生物としてさまざまな機能を持っていることが広く知られていますが、H・コアグランスは、一般的な乳酸菌とは異なり、孢子を形成するため、酸や熱に強く、菌が死滅せずに腸で発芽して増殖するという特性を持っています。これまで腸内環境改善効果、便秘改善、肌機能の改善などの機能性を確認しておりますが、今回は、風邪様症状緩和の可能性について、ヒト臨床試験を行いました。



H・コアグランス

今回の試験では、20歳以上、65歳未満の風邪様症状を呈しやすい被験者79人を対象に、H・コアグランスを10億個以上含むカプセルを摂取するグループ（H・コアグランス群39人）と、H・コアグランスを含まないカプセルを摂取するグループ（プラセボ群40人）の2群に分けて8週間の介入試験を実施しました。試験期間中、風邪様症状のスコアを評価したところ、H・コアグランス群における鼻水、鼻づまり、くしゃみ、のどの痛みスコアがプラセボ群と比較して有意に低値を示し、それらの累積発症日数についても有意に低値を示しました。また当変化に付随して、H・コアグランス群では、ウイルス感染防御を統括的にコントロールしているとされるプラズマサイトイド樹状細胞（pDC）の活性化、さらにはナチュラルキラー細胞の活性化や唾液中の分泌型IgA量の増加も認められました。加えて、H・コアグランス群では腸内酪酸濃度の増加に伴い、炎症が抑制されることも確認されました。

これらのことから、H・コアグランスを摂取することによる、pDCの活性化を介した統合的な免疫賦活作用、ならびに腸内の酪酸産生の亢進を介した過剰な炎症の抑制効果が、風邪様症状の緩和に寄与している可能性が確認されました。

※1 三菱ケミカルグループは、三菱ケミカルグループ株式会社とそのグループ会社の総称です。

※2 ヘンドリクシア・コアグランス（*Heyndrickxia coagulans* SANK70258）

1949年に中山大樹博士（山梨大学名誉教授）が発見した有孢子性乳酸菌であり、長年にわたりプロバイオティクスとして使われている。胃酸で死なず、生きて腸まで届くという特性を持ち、腸内代謝機能の制御や腸内感染症の抑制傾向などさまざまな機能が確認されている。

※3 論文情報：

タイトル：*Heyndrickxia coagulans* strain SANK70258 suppresses symptoms of upper respiratory tract infection via immune modulation: a randomized, double-blind, placebo-controlled, parallel-group, comparative study

著者名：相田 正典、外川 直之、水山 和之、青木 由典、末廣 祥平、坂本 明穂、内田 典芳、山田 良一

雑誌名：Frontiers in Immunology

<https://www.frontiersin.org/journals/immunology/articles/10.3389/fimmu.2024.1389920/full>

以上

お問合せ先

三菱ケミカルグループ株式会社
広報本部 メディアリレーション部
TEL : 03-6748-7140